

令和 8 年度 第 3 回摂津市立別府小学校 学校運営協議会 議事録

令和8年9月14日(月)18:30~

場所:別府小学校 視聴覚室

出席者:校長、教頭、首席、児童生徒支援コーディネーター、学級担任、学校運営協議会委員

1. 開会

会長より開会あいさつがあり、本日の協議事項について説明があった。

2. 学校の近況報告

- ◇校長及び別府小学校教員より、2学期開始後の学校の様子について報告があった。
- ◇児童は落ち着いて学習に取り組んでおり、特別活動では、学級や学校をよりよくするために子どもたち自身が話し合い、考え、行動する活動を進めていることが紹介された。
- ◇今後、修学旅行や運動会、別府小フェスティバル等の学校行事を通して、子どもたちの主体性や自治的な力をさらに育てていく方針が共有された。
- ◇また、授業参観にあわせて本校の学力向上の取組や中学校以降の学習について保護者に伝え、家庭と学校が学習習慣の大切さを共有していくことが報告された。

3. 放課後の居場所づくりについて

- ◇放課後宿題広場は2学期も継続して実施しており、多い日には約40名の児童が参加していることが報告された。
- ◇児童が友達と一緒に宿題に取り組み、学習サポーターが音読を聞いたり見守ったりすることで、安心して過ごせる放課後の居場所となっていることが紹介された。
- ◇今後も継続できる取組とするため、学校だけでなく、保護者や地域の方にも無理なく参加いただけるボランティアの仕組みづくりを進めることが確認された。
- ◇あわせて、けん玉やお手玉、オセロ等の遊びを通して子どもと地域の方が交流する「べふっこあそび広場」について、まずは試行的に実施し、子どもたちが自分で過ごし方を選べる緩やかな居場所をめざしていくこととなった。
- ◇活動に当たっては、安全面や連絡体制、ボランティアのルール等を整理し、教職員や一部の委員に負担が集中しない持続可能な運営体制を検討していく。

4. 子どもと学校運営協議会との熟議について

- ◇校長より、児童会代表や代表委員会の児童と学校運営協議会委員が、学校をよりよくするために直接話し合う「熟議」の場を設けたいとの提案があった。
- ◇子どもたちには、「別府小をよりよくするために、学校のことを一緒に考えてくれる大人と何を話したいか」というところから考えてもらい、子ども自身が話したいテーマを大切にして進めることが確認された。
- ◇委員からは、子どもの要望を単に実現する場とするのではなく、実現が難しいことも含めて大人と子どもが一緒に考えることに意義があり、子どもが学校づくりの当事者となる機会にしたいとの意見が出された。
- ◇視聴覚室をどのような居場所にしていきたいかという具体的なテーマも一つの入口としながら、児童会担当教員等と調整して進めていくこととなった。

5. 地域と連携した取組について

- ◇赤ちゃんふれあい体験学習について、実際の赤ちゃんや保護者とふれあう体験は、子どもたちの思いやりや生命を大切にする気持ちを育む貴重な学習であることが共有された。
- ◇今後も継続できるよう、協力いただける方の募集や物品の搬送など、学校だけでなく地域と連携

して支える仕組みを検討していくこととなった。

- ◇夏休みに実施した「おにぎり企画」では17名の児童が参加し、食事づくりを楽しみながら交流することができたことが報告された。今後は、早めの周知や運営協力者の確保、必要経費の整理等を行い、継続的な実施について検討していく。
- ◇夏休みのラジオ体操についても、日を追うごとに子どもの参加が増え、地域の大人と子どもが顔を合わせる機会となったことが報告され、今後も継続していきたいとの意見が出された。

6. 今後の学校運営協議会の活動について

- ◇放課後宿題広場やべふっこあそび広場等を継続するため、保護者・地域住民・学生など幅広い方に協力を呼びかけ、学校と地域と一緒に子どもたちを支える仕組みづくりを進めることが確認された。
- ◇また、子どもの居場所づくり等に活用できる助成事業について説明があり、今年度の取組を一つのモデルとして、次年度以降も継続できる財源や運営方法を検討していくこととなった。
- ◇PTAまつりや「べふリンピック」等の地域行事についても準備状況が共有され、地域企業、福祉事業所、大学生、保護者など、多様な方々との連携をさらに広げていくことが確認された。
- ◇学校運営協議会から保護者・地域へ情報を届ける連絡手段についても意見交換が行われ、現在の仕組みを運用しながら、新たな連絡ツールを試行・検討していくこととなった。

7. まとめ

- ◇本協議会では、2学期の学校の様子、放課後宿題広場とべふっこあそび広場、子どもとの熟議、赤ちゃんふれあい体験学習、おにぎり企画、地域行事等について報告及び協議が行われた。
- ◇特に、学校が取組を用意して地域や保護者に参加してもらうだけでなく、子ども・学校・家庭・地域がそれぞれの立場から一緒に学校や地域の活動をつくっていくことの大切さが共有された。
- ◇今後も、「誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる学校」「すべての子どもに居場所がある学校」の実現に向けて、子どもを中心に据えながら、学校・家庭・地域のつながりをさらに広げていくことを確認した。